

## 令和6年度 清瀬市立清明小学校 学校評価表

学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動										
目標する学校像(ビジョン)		・清明小学校の特色ある教育活動 ユネスコスクール加盟校としてESD(education for sustainable development) 持続可能な社会を構築する担い 手を育む教育を実践する。そのために、「環境学習」「伝統文化体験」を核に地域学習材を生かしながら、体験型探究学習を通して、何十年後先も地域を愛し、地域発展のために生き抜くための知識と知恵、判断力を育む。また、多面的、総合的に考える力や生き抜く力を養うことを目指す。										
【目標する学校像】 皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が笑顔になれる わが学校 1 子供たち一人が自分らしさを生かして、成長できる学校 2 教職員の個性や能力が発揮され、成長できる学校 3 「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者と地域と協働して子供を育てる学校		①「環境学習」「伝統文化体験」:各教科で身に付けた知識や考え方を活用し、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育成。 ②「特別支援教育」:特別支援学級「あおぞら」、特別支援教室「きらり」との「かかわり」や「他者理解」を特に大切にし、交流及び共同学習に取り組み、自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成。 ③「読書活動」:本に親しみ、本から学び、想像力や読解力、豊かな心の育成。 ④「清明未来塾」:学校支援地域本部と連携した放課後学習「清明未来塾」に取り組み、基礎・基本的な学力の定着や学ぶ喜びを実感。										
【目標する児童・生徒像】 1 学習の基礎・基本を身につけ、主体的に学び、自分の思いや考えを伝えられる子供 2 自分も他人も大切にする、気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供 3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供 4 すずんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な体をつくろうとする子供 5 何事にも粘り強く取り組、最後までやりぬく子供 6 地域の一員であるという自覚を持って行動する子供		①「環境学習」「伝統文化体験」:各教科で身に付けた知識や考え方を活用し、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育成。 ②「特別支援教育」:特別支援学級「あおぞら」、特別支援教室「きらり」との「かかわり」や「他者理解」を特に大切にし、交流及び共同学習に取り組み、自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成。 ③「読書活動」:本に親しみ、本から学び、想像力や読解力、豊かな心の育成。 ④「清明未来塾」:学校支援地域本部と連携した放課後学習「清明未来塾」に取り組み、基礎・基本的な学力の定着や学ぶ喜びを実感。										
【目標する教師像】 教育公務員としての自覚をもち、公正・誠実・謙虚な態度で信頼される言動ができる、常に児童と共に歩み、共学、共働、共遊で人間的な関係を深め、児童理解に務めることができる教職員		・地域学習材を活用した環境学習や伝統文化体験を全学年で実施することができた。今後、探求型学習をさらに充実させ、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を向上させていく。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。子供たちに学ぶ喜び、学ぶ大切さを実感できるような教育活動に取り組むため、日常の授業改善や学校全体で組織的に指導を行える体制づくりに取り組む										
前年度までの学校経営上の成果と課題		・地域学習材を活用した環境学習や伝統文化体験を全学年で実施することができた。今後、探求型学習をさらに充実させ、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を向上させていく。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。子供たちに学ぶ喜び、学ぶ大切さを実感できるような教育活動に取り組むため、日常の授業改善や学校全体で組織的に指導を行える体制づくりに取り組む										
柱	具体的な方策	自己評価				学校関係者評価				次年度以降の改善方策		
		評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方法	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
確かに学力の向上	毎時間めあてを明確に示して、分かりやすい授業を実施する。児童全員の知識・技能力を定期的に把握をする。	3	2	課題 めあてを明確にし、児童に見通しを持たせ、振り返りにも力を入れてきたが、成果指標が達成できなかつた。さらなる授業改善が必要である。 方策 書く力は全ての学習の基礎である。そこで、全学年で、書く力を向上させる作文の時間を検討し設ける。低学年は、言葉について学習する時間を毎日短時間でもどることが学力の定着につながると考えるため、国語の授業の5分程度言葉について学ぶ時間を確保する。	・未来塾では、宿題のはずなのに初見のように質問してくれる児童がいる。授業内容についてそもそも頭に入っていない、定義については授業中にやっているはずなのに理解ができていない。丁寧に教えすぎているのではないか? ・算数の問題を解いていても国語力が低いため、問題の意味が分かっていないことがある。国語力を高めることが重要である。	引き続き、学習目標に沿つためあてを明確にして、児童に学習活動の見通しがもてるよう板書を工夫する。 書く力は全ての学習の基礎である。そこで、全学年で、書く力を向上させる作文の時間を検討し設ける。低学年は、言葉について学習する時間を毎日短時間でもどることが学力の定着につながると考えるため、国語の授業の5分程度言葉について学ぶ時間を確保する。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方法
	豊かな心の育成	具体的物の提示やICT機器の活用、話合い活動を取り入れるなど、児童の実態に沿った指導方法の工夫改善を行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。	3	3	課題 ICT機器の活用法のOJTでの共有、学級活動についての研究をとおし、授業の工夫改善を行った結果、アンケートで児童の9割は、パソコンを使った学習や話合いは楽しいと肯定的な意見となった。しかし児童の話合いの様子や学習を振り返りの様子を見ると、主体的に学び、思考・判断・表現力が十分に育成できたとは言えずさらなる改善が必要である。 方策 今年度校内研究の特別活動で、学級活動を中心に、話し合う活動を計画的に行ってきました。少しずつではあるが、主体的に考える力が向上しているので、次年度も続け、他教科でも生かしていく。また、ICTの活用も、より、思考、判断、表現力向上に結び付く活用法を共有する。	・ICTの活用は十分に行っている。 ・基礎学力がないと話合い活動などもできない。しかし、基礎基本の習熟ばかりをやるわけにはいかないので、同時に行う必要がある。未来塾には学習に苦手さを感じている児童が来ているのはすばらしい。うまく活用していかない。 ・授業参観をしていると、理科の時間に自然とグループになって学習している姿に出会った。自然とグループになっているのが良い。	今年度校内研究の特別活動で、学級活動を中心に、話し合う活動を計画的に行ってきました。少しずつではあるが、主体的に考える力が向上しているので、次年度も続け、他教科でも生かしていく。また、ICTの活用も、より、思考、判断、表現力向上に結び付く活用法を共有する。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
健やかな体の育成		自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表である「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。	3	4	課題 アンケートの結果より、挨拶を返すことならば9割の児童ができるものの、自らすんで挨拶することは、観点では5割程度となっている。進んで挨拶できる児童の育成が課題である。後始末に関しては、個人差が大きく、全体としては概ねできている。机等へのいたずら書きが散見される。公共のものを大切にする意識の向上が課題である。 方策 挨拶は、今年度から挨拶運動が代表委員だけではなく、他の学年も参加し、意識の変容が見られたので次年度も行う。机や公共のものへの落書きについては、道徳の時間等も含め、徹底する。	・清明小学校の児童の挨拶は、以前に比べしっかりできるようになってきている。 ・もともと清明小学校の児童は、よく挨拶をしていた。	挨拶は、地域の方からは一定の評価を得られているものの、まだ十分とは言えない。令和6年度から挨拶運動が代表委員だけでなく、他の学年も参加し、意識の変容が見られたので令和7年度も行う。机や公共のものを大切にする意識の向上については、道徳の時間や生活指導において、徹底する。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
	特別支援教育の充実	学期2回以上のアンケートやいじめ防止対策委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。また、年2回実施のアセスを活用し児童の学級での様子を把握する。	3	4	課題 いじめアンケートは結果をいじめ防止対策委員会で共有。アセスの結果も各担任が学級経営に生かしている。その結果児童の肯定的な意見は9割を超えた。大事に至ってはいないものの、今年度いじめ認定件数が3件であった。また、保護者アンケートでは「分からない」が40%と、他項目に比較してかなり高くなっていることも課題である。 方策 来年度も、年度始めの職員への再徹底、いじめアンケート、アセスに関して適切な運用を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に結び付けていく。そして、それらの活動を学校だよりや保護者会等の場でお伝えしていく。	・いじめアンケートについて保護者の40%が「分からない」と言っているのは、実際に関わっていない保護者は知らないのが当たり前なので良いのではないか?	令和7年度も、年度始めの職員への再徹底、いじめアンケート、アセスに関して適切な運用を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に結び付けていく。そして、それらの活動を学校だよりや保護者会等の場でお伝えしていく。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
本校の特色		養護教諭や栄養教諭と連携して、健康・保健学習を年間4回以上実施する。また、毎日の給食指導や年間2回以上の食育授業を通して、正しい食習慣を確立する。	4	3	課題 全学年で養護教諭、栄養教諭との連携による健康・保健指導は実施することができた。手洗い、換気などの声掛けを放送で休み時間に養護教諭からあるのも効果があったが、その場限りに終わることが多かったので継続して意識づけさせることが課題である。 方策 健康・保健に関する指導が、その場で終わらないように、保健だよりを配布するだけでなく、教室で話題にして指導する。	・本来、手洗いうがいなどの習慣や、食事などについては家庭でも意識していかなくてはならない。	健康・保健に関する指導が、その場で終わらないように、保健だよりを配布するだけでなく、教室で話題にして指導する。また、保健だよりだけでなく、保護者会や個人面談をとおして保護者に呼びかけ、家庭との連携を深めていく。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
		体育科の授業を始め、新体力テストの結果も参考にしながら指導の改善を図る。また、学校だよりで運動の日常化と生活習慣の改善について掲載する。	3	3	課題 遊具等の設置など運動の日常化の向上を図ることはできた。年度当初、教員が体力テストの結果を意識して日々の指導につなげられるように体力向上委員会から発信する必要があった。課題を意識した授業づくりが課題である。 方策 4月に、体力テストの結果を踏まえ、教員に向けた体つくりのOJTを行う。また、児童が体を動かす機会を増やすために休み時間の体育館割当を各クラスに割り当てる。体育朝会や集会の数を増やす。	・縄跳びもボール運動、他、体力なども、昔は勝手にたくさん外で遊んで身に付けていた。子供だけで外に遊ぶことが全体的に、少なくなってきているのではないか? ・保護者が一緒に遊ぶというのも有効である。	4月に、体力テストの結果を踏まえ、教員に向けた体つくりのOJTを行う。また、児童が体を動かす機会を増やすために休み時間の体育館割当を各クラスに割り当てる。体育朝会や集会の数を増やす。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
		特別支援教育担当教員と連携して、児童の実態を考慮した教室環境についての情報共有を学期に1回以上行い、環境整備を行う。	3	4	課題 児童アンケートによると児童の三分の一が床や壁がすっきりした状態とは感じていない。さらにユニバーサルデザインを意識した、環境づくりの徹底が課題である。 方策 異動してこられる方々にも年度開始当初に説明し、引き続き浸透を図っていく。また、教室環境に関連する「清明スタンダード」も認識を深められるよう周知徹底していく。また、今年度途中より実施している金曜日の下校準備時間のかんたん清掃も引き続き実施し、週初めに気持ちよくスタートできるようにする。	・確かに、校内にゴミが目立つときがある。特定に児童の周りに多いということを考えると、保護者と子供との関わり方も重要である。大人が子供の代わりに片付けすぎないことが大切である。	異動してこられる方々にも年度開始当初に説明し、引き続き浸透を図っていく。また、教室環境に周知連絡する「清明スタンダード」も認識を深められるよう周知徹底していく。また、今年度途中より実施している金曜日の下校準備時間のかんたん清掃も引き続き実施し、週初めに気持ちよくスタートできるようにする。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
		特別支援教育担当教員と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。※交流級については交流及び共同学習の実施	3	3	課題 今年度設置された特別支援学級の交流及び共同学習は、概ねスムーズに取り組めたが、時間割で不備が見られた。また、一部児童に關し、人的・物理的に体制十分に取れないことがあった。学校全体で、対応方法を共有し、家庭との連携をさらに深めていくことが課題である。 方策 交流及び共同学習の推進に向けて時間割を整備する。また、生活指導協議会等で特別支援教育に対する理解促進、啓発等を行っていく。校内委員会で支援が必要な児童に対し、外部機関だけでなく家庭との連携もさらにに取り入れる。	・特にあおぞら学級と地域との交流学習は、進めることができた。様々な取組について校内での調整は重要である。	交流及び共同学習の推進に向けて時間割を整備する。また、生活指導協議会等で特別支援教育に対する理解促進、啓発等を行っていく。校内委員会で支援が必要な児童に対し、外部機関だけでなく家庭との連携もさらにに取り入れる。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
		図書館や地域の豊富な教材を活用した体験型探究学習を行い、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育むような授業改善を行う。	3	3	課題 調べたことを、「分析する」「考察する」という力の育成には課題がある。調べる活動は主にインターネットを利用している。図書館の本の積極的利用が課題である。 方策 学習のまとめの中に、「分析する」「考察する」という視点がある項目をつくる。考察・分析への理解が深まる手立てとして、児童に理解しやすい言葉に変え、それぞれの意味について提示し浸透させていく。図書資料の良さを伝え、図書資料を活用することを推奨する。地域図書館で団体貸出を活用する。	・本を読んでイメージするという体験が不足しているように感じる。図書室の利用は積極的に行うべきである。	学習の過程に、「分析する」「考察する」場面をつくる。考察・分析への理解が深まる手立てとして、調べたことを児童に理解しやすい言葉に変え、それぞれの意味について提示し浸透させていく。図書資料の良さを伝え、図書資料を活用することを推奨する。地域図書館で団体貸出を活用する。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価
		地域の教育資源を活用した学習を全学年で2回以上行い、地域に親しみをもたせる。また、今あるものによりよく未来につなげる心を育成する。	4	4	課題 地域支援本部との学期に1回以上の打ち合わせの実施や、地域ボランティア申請書に詳細を記載することを通して、地域支援本部との連携を密にすることができる。引継ぎが不十分だったため例年、依頼していることが、依頼できることであった。次年度への地域教材の引継ぎが課題である。 方策 担当や担任が変わっても、現在の取り組みを継続したり、広げたりしていくように地域人材マップを作成する。	・地域との連携について、今年度までやっていたからと言つて、次年度、無理に継続する必要はない。教員がやりたいと思ったことをやってもらえばよい。	担当や担任が変わっても、現在の取り組みを継続したり、広げたりしていくように地域人材マップを作成する。連携の仕方にについては、その年度の担任が児童等の実態に合わせ検討する。令和7年度も引き続き、地域支援本部との学期に1回以上の打ち合わせの実施や、地域ボランティア申請書に詳細を記載することを通して、地域支援本部との連携を密にしていく。	評価	取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価

